

## エレクトロニクス、自動車分野向け粘着テープ・フィルム市場を調査

- 2014年 世界市場予測(2009年比) -
- ・エレクトロニクス分野「タッチパネル用OCAテープ」 タッチパネル搭載機器の急増で2.9倍に
- ・自動車分野「ワイヤハーネス用粘着テープ」 電装化進展やHV、EV需要も追い風に30.6%増

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、エレクトロニクス産業や自動車産業を始め、様々な分野で使用されている粘着テープ・フィルムの市場を調査した。その結果を報告書「粘着テープ・フィルム市場の用途別展望 2010」にまとめた。

中国を始め新興国においてエレクトロニクス産業や自動車産業が急成長している中、製品の製造過程で使用される粘着テープ・フィルムへの需要も増加している。

この調査では、エレクトロニクス分野15品目、及び、自動車分野9品目の世界市場を中心に、建築・土木分野3品目、その他4品目の日本市場について、各粘着テープ・フィルムの現状を分析し今後を予測した。

### <調査結果の概要>

#### 1. エレクトロニクス分野(15品目)粘着テープ・フィルム世界市場

2009年	2010年見込	2014年予測	14年/09年比
6,411億円	6,710億円	8,033億円	125.3%

2008年秋以降の世界的な景気後退の影響を受け、2009年のエレクトロニクス分野の粘着テープ・フィルム世界市場は前年比12.3%減の6,411億円であった。2010年はエレクトロニクス産業が回復に向かっていることから粘着テープ・フィルムの需要も回復しており、前年比4.7%増の6,710億円が見込まれる。中でも、液晶(LCD)パネル用途で光学用プロテクトフィルムや偏光板用セパレータ、タッチパネル用途でタッチパネル用OCAテープの需要が拡大している。

日本市場は生産拠点の海外移転の影響を受け横ばいまたは微減が予測されるが、世界市場は新興国の需要が牽引し、2014年には8,000億円超が予測される。

#### 2. 自動車分野(9品目)粘着テープ・フィルム世界市場

2009年	2010年見込	2014年予測	14年/09年比
3,134億円	3,425億円	3,923億円	125.2%

自動車分野の粘着テープ・フィルム市場は、自動車の生産動向に需要が左右される。自動車産業が大きく落ち込んだ2009年の世界市場は、前年比13.4%減の3,134億円であった。2010年は自動車産業が回復に向かっていることから粘着テープ・フィルムの需要も回復しており、前年比9.3%増の3,425億円が見込まれる。大型部品に使用される外装部品固定用粘着テープや、日系メーカーに採用の多い自動車塗膜保護フィルム(PGF)の需要が多い。

日本での自動車生産台数は減少しており、生産拠点も海外に移転していることから、日本市場は減少していく一方、新興国の需要が牽引していくことから、2014年の世界市場は3,900億円超が予測される。

### <注目市場>

#### 1. エレクトロニクス分野

##### 1) 光学用プロテクトフィルム

2009年	2010年見込	2014年予測	14年/09年比
680億円	700億円	880億円	129.4%

光学用プロテクトフィルムは、偏光板や位相差フィルム、導光板などLCDパネル用途を始め各種光学部材の表面保護を目的としたフィルムで、部材の搬送時や加工時に使用される。エレクトロニクス分野の粘着テープ・フィルムでは、

国内外ともに最も需要の多い製品である（2010年見込、数量ベース）

需要先の大半がLCDパネル用途の光学部材のため、市場はLCDパネルの生産動向にほぼ連動して推移している。2008年10月以降にLCDパネルの生産が大幅に減少したが、中国の内需拡大政策などを背景として2009年4月頃から韓国メーカーを中心にLCDパネルの生産が回復した。このため、2009年の光学用プロテクトフィルム市場は前年比2.9%減と小幅なマイナスに留まった。

2010年は、LCDパネルがやや生産過剰となっているものの、中国を始めとした新興国の需要増加に加え、バックライトに発光ダイオード（LED）を採用したLCDテレビ（LEDテレビ）のヒットなども牽引し、光学用プロテクトフィルム市場も2008年と同水準に回復すると見込まれる。

LCDパネルの部材である偏光板や位相差フィルムの生産拠点が日本、台湾、韓国にあり、光学用プロテクトフィルムの需要も数量ベースで世界全体の9割近くを占めている。また、中国でも導光板をはじめ偏光板や位相差フィルムなどの生産が増えており、光学用保護フィルムの需要も増加している。

今後、LCDパネルの生産増加に連動して光学用プロテクトフィルムも年率5%以上の成長が予測される。一方、コスト削減のために光学フィルムの機能を統合し使用枚数を削減する動きも見られ、需要の減少が懸念される。

## 2) 研磨パッド固定用両面テープ

2009年	2010年見込	2014年予測	14年/09年比
105億円	113億円	165億円	157.1%

研磨パッド固定用両面テープは、LCD用ガラス基板や半導体のシリコンウェハ、ハードディスクドライブ（HDD）用基板などの研磨工程において、研磨パッドを固定する両面テープである。

研磨パッド固定用両面テープは消耗するまで使用されることから、需要先の動きからやや遅れて影響が現れる。2008年秋以降にLCDパネルや半導体、HDDが減産し、研磨パッド固定用両面テープ市場も2009年に入ってからその影響を受けたが4月頃からLCDパネルやHDDの生産が回復してきており、通年では前年比2.8%減に留まった。

2010年はLCDやHDDに加え半導体の生産も回復しており、研磨パッド固定用両面テープ市場も2008年を超える実績が見込まれ、以降も年率10%前後の高い成長が予測される。一方、研磨パッドの長寿命化が図られており、固定用両面テープの取り換え回数が減少する傾向にもあることから、成長は徐々に鈍化していくと考えられる。

## 3) タッチパネル用OCAテープ

2009年	2010年見込	2014年予測	14年/09年比
52億円	76億円	149億円	286.5%

タッチパネル用OCAテープは、タッチパネルの貼り合わせに使用される基材レス透明両面粘着テープ、透明粘着フィルムである。タッチパネルの方式（抵抗膜式、静電容量式）により、使用部位や厚さが異なる。

スマートフォンやタブレットPCなどタッチパネル搭載機器の急増に伴い、OCAテープ市場も急拡大している。2009年は前年比52.9%増、2010年は同46.2%増が見込まれる。中でもApple「iPhone」「iPad」「iPod touch」に採用されたことで、他社のタッチパネル搭載機器でも採用が急増している静電容量式向けの需要が多い。

タッチパネルの生産は中国、台湾が中心であり、OCAテープの需要先もこれに連動している。その他、韓国、日本にも需要があり、2010年の段階では中国、台湾、韓国、日本で世界の需要先の全てを占めていると見られる。

2014年には2009年の3倍近い市場規模が予測されるが、価格競争の激化による単価下落によって成長が鈍化していくほか、OCAテープ不使用のタッチパネルや液状OCA（UV硬化系樹脂）との競合も懸念される。

## 2. 自動車分野

### 1) 塗装マスキング用粘着テープ（補修用）

2009年	2010年見込	2014年予測	14年/09年比
390億円	410億円	462億円	118.5%

塗装マスキング用粘着テープ（補修用）は、製造工程内の補修や、アフターマーケットでの補修において塗装面以外を汚さないために使用されるマスキングテープで、自動車塗装に不可欠な製品である。作業面への馴染みの良さや強度、剥がしたときに糊残りしないことが求められる。

景気後退の影響を受け補修需要が落ち込み、2009年の塗装マスキング用粘着テープ市場は前年比10.1%減となった。2010年には補修需要も回復することから塗装マスキング用粘着テープ市場も反転し、以降は年率3%前後の成長が予測される。

塗装マスキング用粘着テープは高級車での需要が多く、軽自動車などは少ない。日本市場は近年、高級車よりも軽自動車が販売を伸ばしていることや補修自体の需要減少により、今後縮小していくと予測される。海外市場は、欧米を中心に中国、アジアなど世界各地で使用されており、今後も拡大が予測される。特に自動車の普及が進む中国で需要が増えると考えられる。

## 2) ワイヤハーネス用粘着テープ

2009年	2010年見込	2014年予測	14年/09年比
196億円	216億円	256億円	130.6%

自動車内の各電子機器を接続するワイヤハーネスを結束し被覆保護するための粘着テープである。

自動車産業の落ち込みにより、2009年のワイヤハーネス用粘着テープ市場は前年比14.0%減となった。2010年には反転し、以降は年率4%前後の成長が予測される。しかし、日本市場は自動車生産の減少やワイヤハーネス生産の減少で2008年の市場規模には届かず、2011年以降は横ばいと予測される。一方、海外市場は、日系メーカーの自動車生産の拡大や、中国やインドなど新興国の自動車生産台数の増加、ワイヤハーネス生産の増加によって、年率5%台で市場が拡大していくと予測される。

また、自動車の電装化の進展や、HV（ハイブリッド自動車）、EV（電気自動車）の増加も市場拡大の追い風になると考えられる。

以上

### <調査対象>

エレクトロニクス分野（15品目・世界市場）
光学用プロテクトフィルム、偏光板用セパレータ、電子部品用マスキングテープ、モバイル用飛散防止フィルム、電子部品固定用テープ、タッチパネル用OCAテープ、遮光・反射両面粘着テープ、モバイル用防水両面粘着テープ、研磨パッド固定用両面テープ、放熱シート、PDP用放熱両面テープ、導電性粘着テープ、電気絶縁用粘着テープ、電気絶縁用ポリ塩化ビニル粘着テープ、離型被覆・摺動面用粘着テープ
自動車分野（9品目・世界市場）
自動車塗膜保護フィルム（PGF）、自動車用ウィンドウフィルム（飛散防止/熱線遮蔽/他）、塗装マスキング用粘着テープ（新車用）、塗装マスキング用粘着テープ（補修用）、内装部品固定用粘着テープ、外装部品固定用粘着テープ、気密・防水用粘着テープ、防振用粘着シート、ワイヤハーネス用粘着テープ
建築・土木分野（3品目・日本市場）
建材用プロテクトフィルム、建築用ウィンドウフィルム、建築・土木構造用接合粘着テープ
その他（4品目・日本市場）
ラベル用粘着紙、マーキングフィルム、インクジェットメディア、防塵用粘着シート

<調査方法> 富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・関連団体などへの面接取材を基本とした情報収集

<調査期間> 2010年8月～10月

資料タイトル	: 「粘着テープ・フィルム市場の用途別展望 2010」
体裁	: A4判 259頁
価格	: 97,000円（税込み101,850円） CD-ROM付価格 117,000円（税込み122,850円）
調査・編集	: 富士経済 東京マーケティング本部 ケミカル&マテリアルグループ TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL:03-3664-5811（代）FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: <a href="http://www.group.fuji-keizai.co.jp/">http://www.group.fuji-keizai.co.jp/</a> <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/">https://www.fuji-keizai.co.jp/</a>